

学校教育目標	生き方を学ぶ～自ら考え 心豊かで たくましく生きる 「神崎っ子」の育成～
育成を目指す資質・能力	自分を知り、互いのよさを学び合い、学びを深める力

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 全国学力・学習状況調査で国語、算数とも全国・県を上回っているが、国語の記述式の問題の無解答率が高くなっている。県学力定着状況調査では、目標値を全教科上回ったものの、学力差の大きい教科があり、底上げを図る必要がある。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 授業中は理解しているように見えても、基礎基本の学力が定着していない児童がどの学年にも複数いる。個に応じた課題を工夫する等、引き続き指導が必要である。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) どの学年も「めあて」「課題」を確認して、落ち着いた雰囲気で行われている。漢字や計算などのドリルの学習にも取り組んでいる。また、授業の中でグループ学習やペア学習が日常的に組み込まれていて、和やかに教え合い学習をする姿も見られる。しかしながら、メンタル面での課題を抱えていて教室で授業に参加することが難しい児童や、知的な困りを抱えていて常に個別指導を必要とする児童が複数いる。	
指導の状況	1 組織的な授業改善の取組状況 単元テスト全体平均正答率は目標値の85%を超えて、87.8%であった。児童のアンケート結果によると、「授業でわかった・できたと感じることができた」が97.6%、「授業で自分の考えをもって、ペア・グループ・全体で伝えることができていく」が95.2%、「授業や自主学習の最後に振り返りをして次の学習につなげている」が90.5%、「神崎タイム(朝学習)や宿題で学習した漢字や計算、書く力や読む力が身に付いている」が95.2%であり、前向きに授業に取り組んでいると考察できる。 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ・全職員が授業で課題解決に向けて適切な支援を行い、自分なりの考えをもつ場、考えを出し合う場を設定した。 ・「振り返り」の場の設定や次の授業につなげる取組を意識的に行った。 ・「神崎タイム」や宿題の内容を個に応じたものに工夫する取組が見られた。	

学力に関する達成指標

- 目標をもって学習に取り組み、単元テストで全体平均正答率85%以上
- ・「わかった」「できた」と感じることができる児童80%以上
- ・自分の考えを伝え、学び合うことができる児童80%以上
- ・自己の学びを振り返り、次につなげることができる児童80%以上
- ・基本的な学習習慣が身に付いている児童80%以上

